

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5114632号
(P5114632)

(45) 発行日 平成25年1月9日 (2013.1.9)

(24) 登録日 平成24年10月26日 (2012.10.26)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 1 M 5/168 (2006.01)

A 6 1 M 5/14 4 O 1

A 6 1 B 17/00 (2006.01)

A 6 1 B 17/00 3 2 O

A 6 1 M 25/02 (2006.01)

A 6 1 M 25/02 D

請求項の数 12 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2008-48846 (P2008-48846)
 (22) 出願日 平成20年2月28日 (2008.2.28)
 (65) 公開番号 特開2009-201836 (P2009-201836A)
 (43) 公開日 平成21年9月10日 (2009.9.10)
 審査請求日 平成23年2月25日 (2011.2.25)

(73) 特許権者 590002389
 静岡県
 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
 (74) 代理人 100120396
 弁理士 杉浦 秀幸
 (72) 発明者 松見 しのぶ
 静岡県駿東郡長泉町下長窪1007番地
 静岡県立静岡がんセンター内
 審査官 久保 竜一
 (56) 参考文献 仏国特許出願公開第2 6 2 4 7 4 3 (F
 R, A 1)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

先端にフィルター部を有するカテーテル本体とその基端に取り付けられた点滴用バルブとを有した内頸下大静脈フィルターカテーテルの前記点滴用バルブを固定するバルブ固定部材と、

該バルブ固定部材が上部に設置され人体の頭部に被せて装着可能な帽子部と、を備えていることを特徴とする内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 2】

前記帽子部が、装着状態で前記頭部の後頭骨下部の下側に到達し支持可能な形状とされていることを特徴とする請求項 1 に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 3】

前記帽子部が、装着状態で前記頭部の後頭骨下部の下側を通る後頭部側バンド部を有していることを特徴とする請求項 2 に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 4】

前記バルブ固定部材が、前記点滴用バルブの固定位置を調整可能であることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 5】

10

20

前記バルブ固定部材が、前記点滴用バルブを内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で固定可能な受け皿部を備えていることを特徴とする請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 6】

前記受け皿部が、ポリエチレンで形成されていることを特徴とする請求項 5 に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 7】

前記バルブ固定部材が、前記帽子部に対して着脱可能に取り付けられていることを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

10

【請求項 8】

前記帽子部が、頭頂部から放射状に下方に延在する少なくとも 3 本の縦バンド部と、これら縦バンド部の下端部に固定され前記頭部の外周に装着される環状の横バンド部と、で構成されていることを特徴とする請求項 1 から 7 のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 9】

前記縦バンド部及び前記横バンド部が、長さ調節可能とされていることを特徴とする請求項 8 に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 10】

前記バルブ固定部材が、前記カテーテル本体を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブを備えていることを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

20

【請求項 11】

前記ガイドチューブが、柔軟性材料で形成されていると共に、前記カテーテル本体を差し入れ可能なスリットが全長にわたって形成されていることを特徴とする請求項 10 に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

【請求項 12】

前記帽子部の周囲を少なくとも前記バルブ固定部材の一部と共に覆って隠す用具カバーを備えていることを特徴とする請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブを人体の頭部に固定する点滴用バルブ固定用具に関する。

【背景技術】

【0002】

肺血栓塞栓症や深部静脈血栓症の治療において永久留置型、回収可能型又は一時留置型の下大静脈フィルターが用いられている。この下大静脈フィルターは、下大静脈内に固定され、血栓等の塞栓子が肺に流れ行く前に捕捉する器具であり、専用の挿入器具で例えば内頸静脈（首にある静脈）から下大静脈に挿入されて内部に留置されるものである。

40

【0003】

下大静脈フィルターのうち、一時留置型の下大静脈フィルター（一時的な下大静脈フィルターと称す）は、カテーテルの先端部にフィルター部が設けられていると共に、基端部にヘモスタットバルブと呼ばれる点滴用バルブが取り付けられたものが使用されている。この一時的な下大静脈フィルターでは、点滴ボトルや点滴バッグに接続された点滴ラインを点滴用バルブに連結して血液凝固阻止剤（ヘパリン等）等の添加された生理食塩液等を持続点滴することで、フィルター部の血栓形成による詰まり等を防止している。

【0004】

従来、一時留置型の内頸下大静脈フィルターの場合、頭部において点滴用バルブを外部

50

固定することが必要であり、各現場で独自に工夫されて固定を行っていた。例えば、非特許文献 1 に記載されているように、内頸静脈にカテーテルを挿入し穿刺部で固定した状態で、カテーテルの基端に設けられた点滴用バルブを頭部にバンドなどを巻いて固定していた。これにより、カテーテルの穿刺部と頭部との 2 箇所固定して、頸の運動やフィルター自身の重みでフィルターが引っ張られて移動してしまうことを防いでいる。このような装着状態で、例えば最大二週間の留置が行われる。

【 0 0 0 5 】

【非特許文献 1】渡辺 慎太郎、「下大静脈フィルター」、Heart View、メジカルビュー社、2006 年 6 月、Vol.10、No.7、p.93-96

【発明の開示】

10

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 6 】

上記従来の技術には、以下の課題が残されている。

すなわち、従来、内頸下大静脈にフィルターカテーテルを留置している状態では、バンドを使って頭部に簡易的に点滴用バルブを固定しているが、単にバンドで固定しているだけのため、不安定であってズレやすく、カテーテルが引っ張られて所定部位に留置したフィルター部が移動してしまうおそれがある等の不都合がある。特に、単にバンドで点滴用バルブを頭部の側部に固定しているので、点滴用バルブが頭部の側部に直立状態となってしまう、点滴用バルブが周囲に当たったり引っ掛かったりするおそれもあり、不安定である。また、バンドを頭部に巻いて点滴用バルブを固定する作業は、作業時間がかかり、患者及び看護側の双方にとって時間的ロス及び精神的な負荷が大きいという不都合もあった。

20

【 0 0 0 7 】

本発明は、前述の課題に鑑みてなされたもので、固定した点滴用バルブのずれを防止すると共に容易に装着可能な内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

本発明は、前記課題を解決するために以下の構成を採用した。すなわち、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、先端にフィルター部を有するカテーテル本体とその基端に取り付けられた点滴用バルブとを有した内頸下大静脈フィルターカテーテルの前記点滴用バルブを固定するバルブ固定部材と、該バルブ固定部材が上部に設置され人体の頭部に被せて装着可能な帽子部と、を備えていることを特徴とする。

30

【 0 0 0 9 】

すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、点滴用バルブを固定するバルブ固定部材が上部に設置され人体の頭部に被せて装着可能な帽子部を備えているので、点滴用バルブをバルブ固定部材に固定して頭部に帽子部を被せるだけで頭部に点滴用バルブをズレ難くかつ短時間で容易に位置決め固定することができると共に、良好な装着感を得ることができる。

【 0 0 1 0 】

40

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記帽子部が、装着状態で前記頭部の後頭骨下部の下側に到達し支持可能な形状とされていることが好ましい。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、帽子部が、装着状態で頭部の後頭骨下部の下側に到達しこの部分を支持可能な形状とされているので、帽子部が後頭部の凸部である後頭骨下部の下側に当接して掛かった状態となることで、帽子部全体が上方にずれ難くなる。これによって、帽子部を頭部に強く締め付ける必要がないと共に、患者が横になった際に多少帽子部に力が加わった場合でも、安定した固定状態を維持することが可能になる。

【 0 0 1 1 】

さらに、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記

50

帽子部が、装着状態で前記頭部の後頭骨下部の下側を通る後頭部側バンド部を有していることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、後頭部側バンド部が後頭骨下部の下側を通るので、患者の頭部形状に合わせて帽子部全体をずらして後頭骨下部の下側に当接させなくても後頭部側バンド部によって後頭骨下部の下側を支持することができる。

【 0 0 1 2 】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記バルブ固定部材が、前記点滴用バルブの固定位置を調整可能であることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、点滴用バルブの固定位置を調整可能なバルブ固定部材を有しているので、穿刺部から露出しているカ

10

【 0 0 1 3 】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記バルブ固定部材が、前記点滴用バルブを内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で固定可能な受け皿部を備えていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、点滴用バルブが内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で受け皿部上に固定されて頭部からの突出量が抑えられるので、点滴用バルブが周囲に当たったり引っ掛かったりすることを抑制することができる。

20

【 0 0 1 4 】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記バルブ固定部材が、前記帽子部に対して着脱可能に取り付けられていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、バルブ固定部材が帽子部に対して着脱可能に取り付けられているので、バルブ固定部材を取り外して帽子部だけを洗濯することができ、衛生面に優れた取り扱いが可能になる。

【 0 0 1 5 】

さらに、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記受け皿部が、ポリエチレンで形成されていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、受け皿部が柔軟であると共に十分な強度を有するポリエチレンで形成され、若干の可動性を有しているので、例えば患者

30

【 0 0 1 6 】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記帽子部が、頭頂部から放射状に下方に延在する少なくとも3本の縦バンド部と、これら縦バンド部の下端部に固定され前記頭部の外周に装着される環状の横バンド部と、で構成されていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、帽子部が少なくとも3本の縦バンド部及び環状の横バンド部で構成されているので、各バンド部間に広い隙間があり、頭部全体を塞いで覆う場合に比べて高い通気性を有することで頭部のムレ等を防ぐことができる。

40

【 0 0 1 7 】

さらに、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記縦バンド部及び前記横バンド部が、長さ調節可能とされていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、各患者の頭部の形状や大きさに合わせて縦バンド部及び横バンド部の長さが調節可能であり、各患者に対応して頭部にフィットし、確実な装着と良好な装着感が得られる。例えば、縦バンド部及び横バンド部が、弾性力を伴って伸縮可能な素材（ゴム材等）や面ファスナー等により長さ調整可能な構造とされる。

【 0 0 1 8 】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記バルブ固定部材が、前記カテーテル本体を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチュ

50

ーブを備えていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、バルブ固定部材が、カテーテル本体を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブを備えているので、点滴用バルブ近傍のカテーテル本体をガイドチューブで保護することができると共にカテーテル本体がぶらぶらして周囲に引っ掛かること等を防ぐことができる。

【 0 0 1 9 】

さらに、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記ガイドチューブが、柔軟性材料で形成されていると共に、前記カテーテル本体を差し入れ可能なスリットが全長にわたって形成されていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具で、柔軟なガイドチューブにカテーテル本体を差し入れ可能なスリットが形成されているので、点滴用バルブを固定した状態でガイドチューブ内にカテーテル本体を容易に出し入れすることができる。

10

【 0 0 2 0 】

また、本発明の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具は、前記帽子部の周囲を少なくとも前記バルブ固定部材の一部と共に覆って隠す用具カバーを備えていることを特徴とする。すなわち、この内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具では、用具カバーによって帽子部の周囲を少なくともバルブ固定部材の一部と共に覆って隠すので、装着時に良好な外観性を得ることができ、患者の精神安定に寄与することができる。

【 発明の効果 】

20

【 0 0 2 1 】

本発明によれば、以下の効果を奏する。

すなわち、本発明に係る内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具によれば、点滴用バルブを固定するバルブ固定部材と、これが上部に設置され頭部に被せて装着可能な帽子部と、を備えているので、点滴用バルブをバルブ固定部材に固定して頭部に帽子部を被せるだけで点滴用バルブをズレ難くかつ短時間で容易に位置決め固定することができ、さらには良好な装着感を得ることができる。したがって、点滴用バルブの装着ズレによって挿入しているカテーテルが引っ張られて留置したフィルター部が位置ずれしてしまうことを防ぐことができる。また、頭部への点滴用バルブの固定作業が容易になり、患者及び看護側の双方において時間的ロス及び精神的な負荷を低減することができる。

30

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 2 2 】

以下、本発明に係る内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具の一実施形態を、図 1 から図 3 を参照しながら説明する。

【 0 0 2 3 】

本実施形態の内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具 1 は、図 1 及び図 2 に示すように、先端にフィルター部（図示略）を有するカテーテル本体 2 とその基端に取り付けられた点滴用バルブ 3 とを有した内頸下大静脈フィルターカテーテル 4 の点滴用バルブ 3 を患者の頭部 H に固定するための器具である。

この点滴用バルブ固定用具 1 は、点滴用バルブ 3 を固定するバルブ固定部材 5 と、該バルブ固定部材 5 が上部に設置され人体の頭部 H に被せて装着可能な帽子部 6 と、を備えている。

40

【 0 0 2 4 】

上記バルブ固定部材 5 は、点滴用バルブ 3 を内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で固定可能な点滴用バルブ 3 より若干長く延在した受け皿部 7 と、カテーテル本体 2 を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブ 8 と、受け皿部 7 の下端部には、上記ガイドチューブ 8 に沿って延在する略半割円筒状のチューブ支持部 9 と、を備えている。

また、バルブ固定部材 5 は、受け皿部 7 の裏面と帽子部 6 の頭頂部とにそれぞれ貼られた面ファスナー（図示略）により、帽子部 6 の頭頂部に着脱可能に固定され、点滴用バルブ 3 の固定位置を一定の範囲で調整可能とされている。

50

【 0 0 2 5 】

上記受け皿部 7 及びチューブ支持部 9 は、ポリエチレンで形成されている。

また、受け皿部 7 及びチューブ支持部 9 には、それぞれ点滴用バルブ 3 及びガイドチューブ 8 の固定用バンド 10 が複数取り付けられている。すなわち、受け皿部 7 上に点滴用バルブ 3 を設置した状態で、点滴用バルブ 3 を固定用バンド 10 で固定すると共に、チューブ支持部 9 にガイドチューブ 8 を沿わせた状態でガイドチューブ 8 を固定用バンド 10 で固定する。

【 0 0 2 6 】

上記ガイドチューブ 8 は、柔軟性のある樹脂材料で形成され、その全長にわたってカテーテル本体 2 を差し入れ可能な切れ目としてスリット 8 a が形成されている。

10

上記帽子部 6 は、頭頂部から放射状に四方かつ下方に延在する 4 本の縦バンド部 6 A と、これら縦バンド部 6 A の下端部に固定され頭部 H の外周に装着される環状の横バンド部 6 B と、で構成されたヘッドギアである。

【 0 0 2 7 】

なお、受け皿部 7 は、縦バンド部 6 A の頂部に着脱可能に取り付けられている。また、チューブ支持部 9 は、装着時に耳のすぐ後ろ付近を通るように横バンド部 6 B に面ファスナー（図示略）等で着脱可能に取り付けられている。

【 0 0 2 8 】

上記縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B は、装着時に要求される強度と柔らかさとが得られる素材としてヘリンボーン生地で形成されていると共に、ゴム材を内蔵して伸縮可能とされている。すなわち、帽子部 6 を頭部 H に装着した場合、縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B の収縮によって頭部 H の形状に合わせて縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B がフィットし、ずれ難くなっている。

20

また、上記帽子部 6 は、装着状態で頭部 H の後頭骨下部 I の下側に到達し支持可能な形状とされている。すなわち、縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B が伸びて後頭骨下部 I の下側に横バンド部 6 B の後ろ側が通るようになっている。

【 0 0 2 9 】

なお、縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B に、面ファスナー等を用いて長さ調整可能なアジャストベルト等の調整機構を設けても構わない。これにより、頭部側点から頭頂点までの距離や頭部 H の外周径に合わせて縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B の長さ調整が可能である。また、ゴム材を用いて弾性力をもって伸縮可能な縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B が好ましいが、ゴム材を用いず面ファスナー等の調整機構だけで長さ調整可能な縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B としても構わない。

30

【 0 0 3 0 】

また、横バンド部 6 B の下部に、装着状態で後頭骨下部 I の下側に沿って後頭部側を支持する伸縮可能な後頭部側バンド部を設けても構わない。この場合、後頭部側バンド部が後頭骨下部 I の下側を通るので、患者の頭部形状に合わせて帽子部 6 全体をずらして後頭骨下部 I の下側に当接させなくても後頭部側バンド部によって後頭骨下部 I の下側を支持することができる。

【 0 0 3 1 】

40

さらに、本実施形態の点滴用バルブ固定用具 1 は、図 3 に示すように、帽子部 6 の周囲を少なくともバルブ固定部材 5 の一部と共に覆って隠す用具カバー 11 を備えている。この用具カバー 11 は、幅広である程度の伸縮性を有する環状布製であり、外観性を考慮して種々の色や模様のあるものを採用可能である。

【 0 0 3 2 】

本実施形態の点滴用バルブ固定用具 1 を用いて内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ 3 を頭部 H に固定するには、まず、カテーテル本体 2 を首の穿刺部 I N から内頸静脈に挿入した状態でカテーテル本体 2 を穿刺部 I N において固定テープ T で固定する。次に、帽子部 6 を頭部 H に被せると共に、チューブ支持部 9 が耳のすぐ後ろ付近を通るように帽子部 6 の位置を調整する。

50

【 0 0 3 3 】

次に、点滴用バルブ 3 を受け皿部 7 上に設置して頭部 H の動き等を考慮した位置に固定用バンド 1 0 で固定する。さらに、カテーテル本体 2 をスリット 8 a からガイドチューブ 8 に差し入れ、このガイドチューブ 8 ごと固定用バンド 1 0 でチューブ支持部 9 に固定する。なお、点滴用バルブ 3 には、点滴ライン 1 2 が接続される。また、患者の希望に応じて、用具カバー 1 1 で帽子部 6 の周囲をバルブ固定部材 5 の一部と共に覆っておく。

【 0 0 3 4 】

このように本実施形態の点滴用バルブ固定用具 1 では、点滴用バルブ 3 を固定するバルブ固定部材 5 が上部に設置され人体の頭部 H に被せて装着可能な帽子部 6 を備えているので、点滴用バルブ 3 をバルブ固定部材 5 に固定して頭部 H に帽子部 6 を被せるだけで頭部 H に点滴用バルブ 3 をズレ難くかつ短時間で容易に位置決め固定することができ、さらには良好な装着感を得ることができる。

10

【 0 0 3 5 】

また、帽子部 6 が、装着状態で頭部 H の後頭骨下部 I の下側に到達しこの部分を支持可能な形状とされているので、帽子部 6 が後頭部の凸部である後頭骨下部 I の下側に当接して掛かった状態となることで、帽子部 6 全体が上方にずれ難くなる。これによって、帽子部 6 を頭部 H に強く締め付ける必要がないと共に、患者が横になった際に多少帽子部 6 に力が加わった場合でも、安定した固定状態を維持することが可能になる。

【 0 0 3 6 】

また、点滴用バルブ 3 の固定位置を調整可能なバルブ固定部材 5 を有しているので、穿刺部 I N から露出しているカテーテル本体 2 の長さに合わせて点滴用バルブ 3 の位置を調整して固定することができ、カテーテル本体 2 の無駄な撓みなどを防ぐことができる。さらに、バルブ固定部材 5 は、点滴用バルブ 3 が内側に向けて傾斜状態又は横倒し状態で受け皿部 7 上に固定されて頭部 H からの突出量が抑えられるので、点滴用バルブ 3 が周囲に当たったり引っ掛かったりすることを抑制することができる。

20

【 0 0 3 7 】

また、バルブ固定部材 5 が帽子部 6 に対して着脱可能に取り付けられているので、バルブ固定部材 5 を取り外して帽子部 6 だけを洗濯することができ、衛生面に優れた取り扱いが可能になる。

また、受け皿部 7 が柔軟であると共に十分な強度を有するポリエチレンで形成され、若干の可動性を有しているので、例えば患者が装着状態で睡眠する際にも違和感を低減することができる。

30

【 0 0 3 8 】

また、帽子部 6 が縦バンド部 6 A 及び環状の横バンド部 6 B で構成されているので、各バンド部間に広い隙間があり、頭部 H 全体を塞いで覆う場合に比べて高い通気性を有することで頭部 H のムレ等を防ぐことができる。

さらに、各患者の頭部 H の形状や大きさに合わせて縦バンド部 6 A 及び横バンド部 6 B が伸縮自在であり、各患者に対応して頭部 H にフィットし、確実な装着と良好な装着感とが得られる。

【 0 0 3 9 】

また、バルブ固定部材 5 が、カテーテル本体 2 を挿通可能であると共に下方に延在したガイドチューブ 8 を備えているので、点滴用バルブ 3 近傍のカテーテル本体 2 をガイドチューブ 8 で保護することができると共にカテーテル本体 2 がぶらぶらして周囲に引っ掛かること等を防ぐことができる。さらに、柔軟なガイドチューブ 8 にカテーテル本体 2 を差し入れ可能なスリット 8 a が形成されているので、点滴用バルブ 3 を固定した状態でガイドチューブ 8 内にカテーテル本体 2 を容易に出し入れすることができる。

40

【 0 0 4 0 】

また、用具カバー 1 1 によって帽子部 6 の周囲を少なくともバルブ固定部材 5 の一部と共に覆って隠すので、装着時に良好な外観性を得ることができ、患者の精神安定に寄与することができる。特に、女性が使用する場合など、装着時の外観的特異性を和らげる効果

50

を得ることができる。

【 0 0 4 1 】

なお、本発明の技術範囲は上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更を加えることが可能である。

例えば、上記実施形態は、帽子部 6 が 4 本の縦バンド部 6 A を有しているが、少なくとも 3 本の縦バンド部 6 A があれば良い。

また、点滴用バルブ 3 と受け皿部 7 との隙間を埋めるために、受け皿部 7 上にスポンジ等のクッション材を取り付けておいても構わない。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 4 2 】

【図 1】本発明に係る内頸下大静脈フィルターカテーテルの点滴用バルブ固定用具の一実施形態において、点滴用バルブ固定用具を装着した状態を示す側面図である。

【図 2】本実施形態において、点滴用バルブ固定用具を装着した状態を示す正面図である。

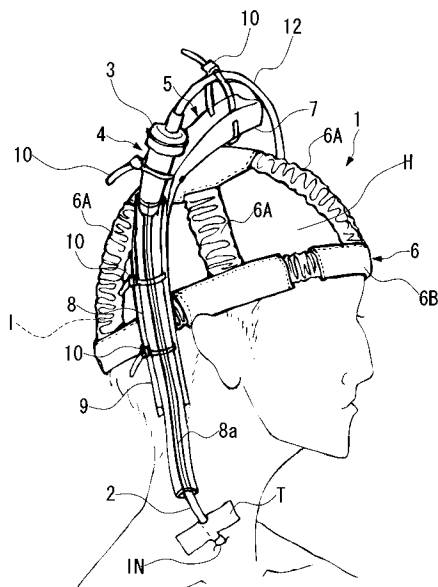
【図 3】本実施形態において、点滴用バルブ固定用具を装着した状態で補助具用カバーを被った状態を示す側面図である。

【符号の説明】

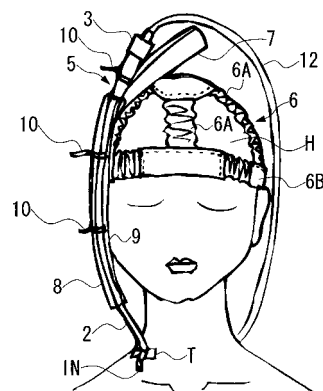
【 0 0 4 3 】

1 ... 点滴用バルブ固定用具、2 ... カテーテル本体、3 ... 点滴用バルブ、4 ... 内頸下大静脈フィルターカテーテル、5 ... バルブ固定部材、6 ... 帽子部、6 A ... 縦バンド部、6 B ... 横バンド部、7 ... 受け皿部、8 ... ガイドチューブ、8 a ... スリット、1 1 ... 用具カバー、H ... 頭部、I ... 後頭骨下部

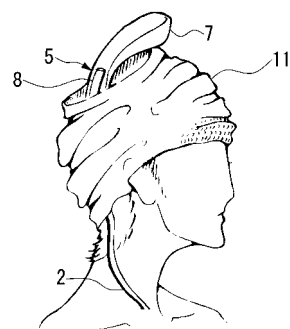
【図 1】



【図 2】



【図 3】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A 6 1 M 5 / 1 4 - 5 / 1 7 5

A 6 1 B 1 7 / 0 0

A 6 1 M 2 5 / 0 2